# お茶新聞

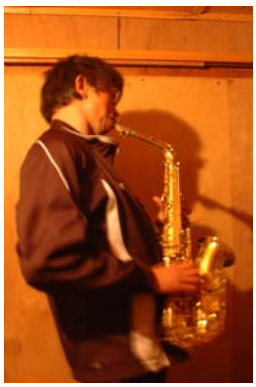
**2007年 冬号**

発行元
亀山市辺法寺町
８１１
市川大楽園製茶
お茶新聞編集部
電話 0595-85-0321
FAX0595-85-3005
http://www.shopmie.com/dairakuen

## 秋番茶が終ったら、もう年の瀬、一年が早く感じます。

### 敬老会、お茶売りとサックス

毎年十一月初めに敬老会というお年寄りが集まって、歌や踊りを楽しむ会があります。毎年そこで、お茶を販売させてもらっています。小学校の体育館で行なわれます。当店の出店販売の原点で、父が始めました。今は店長の私が引き継いでもう十年以上やっています。今年は芸能大会に出る人が少なく、二、三日前に趣味のサックスをやってくれ。と声をかけられたので、あまり人前でやったことないのですが、演奏することにしました。今まで出店させていただきお茶を買っていただいた恩返しの意味もありました。お年寄りのわかる曲のレパートリーがなかったので前日に「上を向いて歩こう」の譜面を買い、必死に練習しました。当日は、緊張のあまりお茶売りどころではなく引き受けなければ良かったと後悔しました。何とか恥をかかない程度に演奏し終えました。本当にこの日ばかりは、お茶売りどころではありませんでした。何人かの方に良かったよと声をかけていただいてうれしかったです。



必死で練習する私

### ほうじ機ついに壊れる。

名古屋市内の小売店にあった、中古のほうじ機を、買って、家でほうじをやりだして、はや一五年。ついに胴が破れ、バーナーもおかしくなり使えなくなりました。ガス屋さんに見てもらいましたが直らず、別の方法を考えることにしました。今は、一番茶のほうじ茶は、亀山茶農協に同じタイプの店頭用ほうじ機があるので、そこに行って私が自分でほうじています。そのほうじ機は新しいので今までよりほうじ加減が安定しています。でも一時間に5キロぐらいしか出来ないので、気長にやらないといけません。番茶のほうじ茶は、専門業者に当店から秋番茶を持ち込んでほうじてもらうことにしました。砂を使ったほうじ機で、今までより茶が良くふくらんで、均一にほうじることが出来て、ワンランク上のお茶になったようです。でも今まで古いほうじ機で失敗を重ねながら、付きっ切りでお茶をほうじていたことは忘れられません。それ以前は、マキを使った大型のほうじ機を使っていました。当時は、ほうじというと、火起こしから始めて一日仕事でした。居眠りして真っ黒に焦がしてしまったこともあります。

店頭用ほうじ機での
ほうじ作業

### 地球がおかしい？

秋になってからの暖かい気候のせいで、庭の八重桜が咲いたり、ケヤキの木から新芽が吹いたりしています。ケヤキの木は新茶の季節から新芽が吹き始め、お茶いっぱいつけ、二番茶の頃には、葉ずれの音が心地よいほど、葉を茂らせます、秋番茶の間にはすっかりまる裸になってしまいます。毎年その繰り返しだったのですが、今年はなぜか黄緑色の葉が出てきました。気候の変動を実感しますね。

秋番茶を製造している時期に
黄緑色の葉をつけたケヤキ

10 月末、庭の八重桜が
咲いた

### 茶畑便り

夏から秋にかけて、いい具合に、雨と高温に恵まれいつも以上に茶の木には良かったと思います。おかげで秋番茶が伸びすぎて乗用機械で刈り取るときに、詰まってしまって困りました。ただ雑草もいつも以上に多くて、特に中刈りしたところは、茶の木の下まで、日が通るので、雑草が爆発的に成長し原野のようになってしまいました。バイトを頼み、草取りをしてもらいました。今年の秋はいつまでも暑かったですね。昼間はTシャツ一枚の日もありました。秋番茶を刈った後でも、芽が出てきました。お茶農家の中では五番茶までとれるんじゃないかと言っていました。ちなみに秋番茶は、三番茶の葉と、四番茶の芽を同時に刈っているのです。十月末ぐらいから、秋整枝といって、茶園の上をならします。秋番茶を刈った高さから、一ｃｍほど落とします。秋番茶を刈った後は、枝が残っていたりして、多少でこぼこしていますが、秋整枝した後は、なめらかな板のように、ならされます。お茶農家の主な仕事は終ります。私が前に書いたようにお茶のシーズンとプロ野球のシーズンはだいたい一致しているのですね。

乗用機械で刈り取った秋番茶
を、トラックに空ける。